









# 在佛十七年 [九]

——自傳風に語る——

藤田嗣治

パリの真價、フランスの真價は歴史から残された記念物でもなく風光の秀麗さでもなく、今日のフランス、今日のパリが世界的な名聲を有して居る今日の人々から出來て居るといつていいだらう。自分はそれ等の人の美術觀を聞き、その人達と意見を翻はせる事を自分のもつとも好ましき事又望む所として居る。大敵と戰ひつゝ若い將來のある青年が自分の後方にある事を忘れづに、一分の暇もなく營々として努力する。自分はそれで満足でありそして常に努力を弛めない。青年が自分の後方にある事を忘れづに、一分の暇もなく營々として努力する。自分はそれで満足ものではない。自分には自分の死ぬ日までの奮闘があるばかりである。最後まで努力しなければならない。どこまでを大家といつてそれで安心していいといふやうな規則もなし、目標もない。自分はたゞ一介の畫學生として、いつまでも變ることない。世間的の名聲は買ひ得ても、實際的の價値は決して購ひ得るものではない。自分で努力しないといつてそれで安心していいといふやうな規則もなし、目標もない。自分はたゞ一介の畫學生となり七十になつてもさうした若々しい新しい意氣をもつて勵んでゐるからこそ、有益なそして意義ある撥刺たる作品を生みだしてゐるのである、と僕にはハツキリうなづけるのである。

五年前にフランスの政府からレジオン・ドノールといふ勳章をもらつた。續いてベルギイ政府から同様の勳章をもらつた。けれども別に本國の親父からそれがに對しての祝詞の手紙ももらはなかつた。軍人なら勳章を胸につけて大道を闊歩する事も出来ようが、書かきに勳章をつける機會もなく、そのまま藏つてある。勳章を持つて居るから偉いのではない。偉ければ勳章はひとりでにその人の胸に輝くやうな性質のものだらう。

サロンに通つたとか、サロンの會員になつたとか、審査員になつたとか、勳章をもらつたとか、といふことは、單に世界的

地位があつて、眞實の自分の地位は、自分が死んだ時に始まり、その死後に始めて確定せられるものだ。僕は前に述べた通りこれで満足だ、と自ら安んすべき地位を持たないのだ。自分は死ぬ日まで若い學生の氣持で努力を續けなければならない。却て大家とかいはれるために起る煩雜な雜用は成るべく避けたと思ふのである。

一國と一國との親交を計るのには政治の力だけではいかぬ。日本人がナボレオン、ジャンヌ、ダルクを知つて居るやうに、ヨーロッパ人は廣重、北齊、歌磨、の名を皆知つて居る。が悲しいかな、豊臣秀吉、徳川家康、西郷隆盛、二宮尊徳、松下順尼を知らない。いはんや石川五右衛門、鼠小僧のやうなものは永久に西洋人の總てに知られる人ではない。藝術の力こそ、總ての國境を越ぬ、人種の差別を超えて世界の人間の胸のうちにしみ込む。これが眞の親善だ。各國が各國と國際上の競争をするために生れる博覽會には、必ず美術家を先頭に出して居る。一國の古來の歴史も、現在の狀況も吾々書かきにほんと全部を委ねることになつて居る。國と國との親交は却て一個の藝術家のやうな個人々々の交歓がもつとも有益であつて、この意味において我々は平素非常な使命を果してゐるものと信じてゐる。事實は「なんだ書かき風情か」と輕視され得るのである。…

現代のフランスの美術學校は依然として繼續されてゐる。そして堅實な手堅い世間のいはゆる舊式な畫法ながらも手腕のある畫かきを養つてゐる。然し世纪を代表し世界に冠たる天才は美術學校創設以來一人も出でてゐないことを知つた。美術批評家の唱道と聲援と美術家自らの覺醒とによつて、從來の如き型にはまつた畫的のものでなく、我々藝術家は全く個性の發現をする所を遺憾なく表現し、自分の命運を偽らず自分の持つて居るだけの手腕で發表する傾向とな



閑

DR. K. DAIAN  
MEDICO-OPERADOR-PARTEIRO  
ARACATUBA

新式設備 技巧優秀  
一式最新治療  
ペナ駆カフ  
**歯科醫 入**  
**歯科醫 清**  
西線リヌス駆リオ・ズ  
備を以つて一般治療  
井歯科 向廿  
ソン駆ブラサ、アリメ  
して敏速  
して廉價  
デルナ  
佐藤 梨薬師  
ンス市ルイス・ガマ  
(大福旅館と福島バ  
内外雜貨—小間物類  
穀物仲買—其他一切  
現金主義モットー  
吉井  
ホタルエ  
合自動車  
館主村  
ハウリスタ  
グキ駆ベエラコンセ  
セイソン發午前八時  
午后三時ベエラコンセ

水 安 丸 恵 正 行  
（川尾旅館隣）  
エランヂア町  
シ町セルヂツベ街  
フランコ街二五  
中須矢吉  
井 丈 松  
一ロデ、マイオ街  
郵函……九七  
に應ず  
ナ  
テ  
ク  
ル  
ス  
タ  
ソ  
ン  
上 義 雄  
藤 德 一 郎  
ホル驛 郵函二〇八  
延長線 マリ、ア驛  
イソン市街地

<b>旅館</b> リンス市に 本館	<b>Hotel</b> <b>Kumamoto</b> Caixa, 208 Est. Araçatuba	<b>御料理</b> <b>旅館</b> 並	<b>Hotel</b> <b>Yamamoto</b> <small>▲親切</small>	<b>旅館</b> <small>中</small>	<b>御視察の際</b> <b>HOTEL CENTRAL</b> S. Ishigami ARAÇATUBA	<b>Hotel</b> <b>Japonez</b> <small>御便</small>	<b>HOTEL</b> <b>PROGRESSO</b> <small>日本</small>
--------------------------	---	------------------------------	---	-------------------------------	--	---	---

# 旅館 テル



## 聖州新報リンス支社

## 開設について

本社

香山六郎

ノロ線殖民の集團地中心のリ  
ンス市に、支社を設けないとは  
永い間の希望でございました。  
リンスの親しい知人連にも「何  
うまだ支社問題はグズくし  
て居るのか」と幾度か面責され  
た事でした。

支社設置問題で、私の最も難  
澁したのは、「人物」でありま  
す。實はその爲め、今日まで此容  
易な問題が、解決に苦んだので  
す。

玉木君は鶯も不惑もなかばと  
玉木君は鶯も不惑もなかばと

過ぎ、日本に於ても斯道の一人  
者たる経歴があり、村崎君は對  
伯人交渉の茶飯事に支社を代表  
して、在リンス市邦人伯語不慣  
諸賢の何かと御役にたつ可く、  
斯くてこの兩人の活動によつ  
て、本社の報道機關がノロ線全  
社を開設いたしました。殖民大  
衆文化向上の爲めに、何かと  
待しうると信じ、心おきなく支  
御利用下さい。又何んかと利用  
させていただきます。

## リンス支社開設につき

## 御挨拶に代へて

豫て計畫中の聖州新報社リン  
ス支社の開設は今回いよいよ實  
現し下名共兩人が其經營の任に  
當ることになりました。

時は恰もブラジル經濟界空前  
の大恐慌時期に遭會し、人は凡  
骨其任ではない、即ち時に利あ  
るにあらず、任に其人を得たる  
譯でもあるまい、けれども唯だ  
一つ吾が同邦の最大集團地であ  
り最強の勢力集中地であるリン  
ス市に支社を開設し此處を立脚  
地點としてノロエステ全線に亘  
する機会と緣故とを從前に比  
し、より多く作り得ることは何  
によりの幸福と存じます、又こ  
れが今度支社開設につき私共の  
懷く唯一の期待であります。

當然の歸趣、自然の順應とい  
ふ意味から謂へば寧ろ一步を進  
めて本社をリンス市へ移轉し來  
るのが妥當であるかも知れぬ、  
幸に江湖の同情が舊に倍して  
深厚に、非才を鞭撻して激勵し  
於ける同邦諸彦の權威ある言論  
機関としての存在たらしむべく  
且つ親切なる批判者たるの任務  
を遂行せねばならぬのでありま  
す。

村崎豊重

聖州新報リンス支社

## 祝スンサン支社開設

## 山根事務所

藤齊時計店

市スンリ

スンリ

伊藤定五郎

リンス市(笠田醫院前)

本田寫眞館

リンス市お寺廣場横町

本田安記

リンス市アベニーダセツテンプロ

吉瀬軍平

リンス市シネマオデオン隣

ペンソン・プログレッソ

宮平市助

リンス市シネマオデオン隣

武田商店

リンス市郵函一二九

ホテルつち屋

土谷庄之助

リンス本通ノ六三

澁谷商店

リンス市

農田源行

リンス市

下矢鐵工所

リンス市

下矢治三郎

リンス市

山中信一

リンス市リオブランコ街一二五

矢部洋服店

リンス市

笠田醫院

リンス市

正數

私立女子裁縫講習所





滑稽

# トムスの旅

など、一切わからぬ事だ。  
「どうちやわからぬか、それ  
はこれを其方に遣はすゆへ、  
三日考へてもわからぬ時は、も  
う地獄の所へ行くと申したら、  
立派にして遣りなさい、何も不  
足ない身代だ、三千や四千兩の  
金子を使ふても何んでもない、  
子供の命は大事ぢやぞ、

利「敵に有難うござります」  
左「右するうちに料理など出した  
が、禪師は堅く辭して、

「ア、來るとともこの道歌

と尙拍をつれて住吉差してお歸

りになつた。

「サア歸らう」

と尙拍をつれて住吉差してお歸

りになつた。

「ア、來るとともこの道歌

と尙拍をつれて住吉差してお歸

りになつた。

「ア、來るとともこの道歌